

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.62 2012.10.1



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831
URL <http://kikusui-net.jp>



よつクロ佳作受賞

札幌市社会福祉協議会の福祉のまち推進ウィーク関連事業の一環として、今年度も「福祉の活動写真及び広報紙コンクール」が開催されました。応募作品数は、34地区から34作品が出品され、審査の結果、菊水地区広報紙「よつ葉のクローバー第57号」が佳作の「伝えたいことが手に取るようにわかるで賞」を受賞しました。



「福まち」地域福祉市民活動フォーラム



札幌市副市長渡部正行氏

9月19日(水)、午後1時半から北海道立道民活動センター(かでの2・7)の大ホールに於いて開催されました。

開会に先立ち、札幌市副市長渡部正行氏からご挨拶がありました。その要旨は、全国的に少子高齢化が進行し、本市も例外ではありません。平成24年、65歳以上の高齢者が総人口に占める割合は、超高齢化社会といわれる21%に達すると見込まれます。また、一人の女性が生涯に生む子どもの数を表す出生率も低下しています。

一世帯あたりの平均世帯人員が年々減少し、平成22年の国勢調査によると2.16人となり、構

成員別世帯数では、単身世帯が多くなっており、特に、高齢者の単身世帯と高齢者夫婦の世帯だけが増加しています。一方年々、地域の住民同士の付き合いが希薄になっており、高齢者・障がい者等の見守り活動にも地域の連携や地域ボランティアの役割が今以上に必要とされています。

基調講演

講師は、北翔大学人間福祉学部長林恭裕氏による基調講演がありました。テーマは、「集合住宅における孤立死と地域と連携した見守り活動について」です。

1) 何を基本に地域（コミュニティ）をつくるか

① 防災をキーワードに地域（コミュニティ）への関心が高まっている。② 孤立死は、高齢者だけの問題ではない。③ 地域住民の関心（困りごと）を知ることが第1歩である。

2) 応急的な対策としての見守り活動の展開

① いま、見える人への対応としては、単身高齢者の見守り活動がある。

3) 恒久的な対策としての「場」や「関係」をつくること。

① 住民との関係をつくり、孤立老人をなくす取り組みが必要である。② 地域（コミュニティ）を作る場となる取り組み・・・サロン・イベント・たまり場等です。



北翔大学講師 林恭裕氏

事例発表・シンポジウム

[テーマ] 「集合住宅における高齢者の孤立防止に向けた取り組みについて」



[発表者] 第二もみじ自治会 会長 佃 律子氏
幌北第3町内会 会長 小川 富之氏

コーディネーターとして北翔大学人間福祉学部長林恭裕氏が再び登壇し、もみじ台自治会の取り組みが発表されました。（紙面の都合上この内容のみとします。）

第2もみじ台自治会は、13棟560戸からなる自治会です。もみじ台地区の平成24年1月の高齢化率は34.1%と高い状況です。

以前、「この自治会では、住民同士朝の挨拶もなく。暗いわ」と居住者に言われました。平成23年、第2もみじ台黄色いエプロンの会を結成しました。会員の多数は高齢者の方が参加されています。住民に声掛け、ちょっとしたお手伝いをしています。

高齢者福祉功績者表彰式

9月10日（月）、午後1時30分から札幌市社会福祉総合福祉センター大研修室において「札幌市高齢者福祉功績者表彰式」が行われました。菊水地区から団体の部として豊平川ラジオ体操会代表上野朝夫氏が高齢者の奉仕をたたえられ高齢者福祉功績者表彰を受賞しました。



当団体は、ラジオ体操を21年継続され、現在の参加人数40～43名程度です。豊平川ラジオ体操会の皆さん受賞おめでとうございます。

編集後記

気温が例年並になり、過ごしやすい季節になりました。これからは、ウォーキングや読書をするには最適だと思います。

今月号は、「福まち」地域福祉市民活動フォーラム及び高齢者福祉功績者の記事を中心に編集しました。

（品川）